

競輪公式投票CTC杯



9/28(日)29(月)30(火)



川崎スポーツ

レース展望

9月28日から開催されるFIIナイターは競輪公式投票CTC杯。東日本・中四国・九州から好選手が集まっての熱戦が予想され、A級1・2班戦と3班チャレンジレースの二部構成で1日11レース制。

今開催で地元の期待を集めるのは塚本瑠羽(119期)になるはずだ。前々期A級3班だったために今期は2班で予選スタートを強いられているが、前期はS級2班で6月には2場所連続で勝ち星を挙げ、調子を上げてここまで戦っている。落車を除けば全て決勝進出を果たしており、7月松戸で完全Vも1回決めているだけに、機動パワーをフル発揮して人気に応える。同じく南関には積極型の実原亮太(千葉115期)やS級での経験豊富な藤田大輔

(千葉91期)と揃い、そこにホームバンクの先行型高本和也(121期)も加わって、強力ラインを形成する場面もあるだろう。関東勢では徹底先行の上川直紀(栃木117期)や8月小倉で一撃優勝を決めて来た戸辺捺希(埼玉117期)がレースを引っ張る展開が予想され、ベテランマークの内田英介(東京91期)や尾崎剛(埼玉79期)が続いて好連係を目論むはず。遠征ラインでは今期初の2班昇班を果たした角宗哉(山口125期)が台風目の持ち味を生かした突っ張り先行で最後に強地脚を発揮して、7月からV1回・準V2回の成績は見事。

タテコ何でもこなす滝本泰行(岡山107期)や、前期S級では苦しい戦いが続いていたがだいぶ状態

を立て直して来た門田凌(愛媛111期)との連係から上位進出を狙う。

チャレンジレースでは傑出した選手が見当たらず、誰にでも優勝チャンスがありそうな気配。まずは新人森飛龍(静岡127期)と山本康旗(大分127期)の先行力が注目されるが、成績を見る限りここまではまだ力を出し切れていないような印象だ。今回は強力自力型が手薄な開催だけに、当然初Vを狙って初日から全力疾走。行きっ振りマズマズな平山優太(福島119期)や点数上位のベテラン小松剛之(宮城79期)・足達重満(長崎80期)も展開ひとつでV獲りに成功する可能性もある。

実力差が無くV争いは混戦模様

A級
主力選手



塚本瑠羽 神奈川 119期

前期は初のS級だったが、今期はA級降級となり、2班格付けなので初日は予選からのスタートとなるが、鋭い踏み出しから繰り出すカマシや捲りは、A級トップクラスの威力で連日頭から狙っていききたい。戦力充実している南関ラインの中心的存在で、優勝候補の筆頭。

A級
主力選手



角宗哉 山口 125期

基本的なスタイルは前を取っての突っ張り先行で、力強いレースが続いている。今年7月に2班に昇班してからは、全て確定板に乗り(9月20日現在)、1・2班戦でも十分通用することは証明済み。チャレンジ時代からのしっかりした土台作りが、実を結んでいる印象だ。

A級
主力選手



上川直紀 栃木 117期

ムラはあるがカマシや捲りで持ち味を発揮した時は、競走得点以上の走りをする。今シリーズは関東の機動型が手薄なだけに、上川に掛かる期待は大きいだろう。当地はかつて完全Vを達成したこともある好相性バンク。タイミングひとつで鋭い捲りが炸裂するだろう。

A級
注目選手

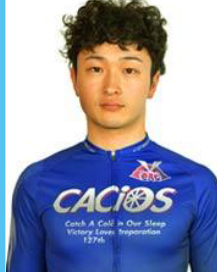
平山優太 福島 119期



流れに応じて何でもこなせるタイプであり、先行もするしヨコの動きにも強い。本当の意味での自在型だろう。近況はやや不安定な成績だが、ある程度調子が上がれば戦法の引き出しが広いだけに強敵相手でも勝機を見い出せる可能性は十分。車券への貢献度も高い選手だ。

A級
注目選手

山本康旗 大分 127期

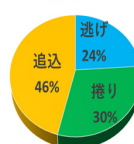


大学まで野球で培った身体能力を生かし、競輪選手としてプロデビューを果たした。まだまだ自転車競技の経験は浅いものの、着実にステップアップしている。徐々に勝ち上がりの競走内容も良くなりつつあり、レースにもだいぶ慣れてきた様子。初優勝も時間の問題だろう。

川崎競輪場バンクガイド (2024年1月~12月データ)

昨年1年間28開催・936レース(ガールズケイリンを含む)の川崎バンクの決まり手は右表の通り。昨年までのデータと逃げ・捲り・追込・マークのパーセンテージには大して変わりはないが、1着に限って言えば逃げ・捲りの決まり手は変わらず50%を超えているので、自力型のアタマから組み立てていく車券戦略が可能だろう。川崎名物イエローライン付近のゴール前強襲は、選手たちも新バンクに慣れて徐々に出現率が高くなってきている感であり、力のある追込型はたとえ後方に置かれたとしても、最終4コーナーから一気に巻き返す可能性もあり軽視出来ない印象だ。

1着決まり手



2着決まり手

